別　添

令和8年度　夏期インターンシップ生（長期）受入れ予定一覧表

番号	受入れ部署		受入可能期間			留学生	受入れ対象	受入れ可能人数	実習内容	備　　考	指導担当者１			指導担当者２			指導担当者３		
	局・部・グループ	チーム・班・担当	自	至	受入れ最低期間						役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号
1	技術推進本部	先端技術チーム	令和8年7月1日頃	令和8年9月30日頃	最低1 週間	不可	院・ 学・ 高	2名	自動施工技術に関する実習(5日間) ・人が搭乗しない建設機械を自動で施工させるためのシステム開発と 動作実験 公共インフラ機械設備に関する実習(5日間) ・ 国土交通省が管理運用しているインフラ機械設備の見学。 ・ インフラ管理施設(水門、ポンプ等)において、ロボット やデジタル技術を用いた状態把握手法により、点検や診断の効率向上に向けた実験。 ・ 設備の状態把握を3次元画像を用いて行う 検証。 ・ 水門設備の運用を自動化するための自動操作システムを模擬環境で検証。	受入れ可能期間について、学会等の都合により受入れできない期間が発生する恐れがございます。受入れができない期間とご希望の実習期間と重なっておりましたら、実習時期についてご相談させていただきますのでご了承く ださい。 また、受け入れ期間は1週間（ 5日） ×２ 実習(自動化・ 機械設備） の最大2 週間ですが、１ 週間(5日)で１ 実習のみでも可能です。（ その際は希望コースを指定してく ださい）	上席研究員	味田　悟	3561	上席研究員	橋本　毅	3568			
2	地質・ 地盤研究グループ	土質・ 振動チーム	令和8年7月13日頃	令和8年9月11日頃	最低1 週間から２ 週間	可	院・ 学・ 高	1名	河川堤防の越水対策（ 粘り 強い河川堤防） に関する小型模型実験および分析		研究員	柿原　結香	4229	交流研究員	多田　篤史	4222			
3	流域水環境研究グループ	水質チーム	令和8年7月中旬頃	令和8年9月中旬頃	最低1 週間	不可	院・ 学・ 高	1名	下記の内容に関連した実習を実施する 。下記は実習内容の案であり 、応募者の興味・ 関心に合わせて調整予定。 ①ダム貯水池・湖沼の水質モニタリング技術の検討 　衛星画像解析やカメラ画像解析等の技術によるダム貯水池・湖沼の水質モニタリング手法に関する検討を実施する。 ②気候変動下におけるダム貯水池・湖沼の水質影響の検討 　将来の気候変動下におけるダム貯水池・湖沼等の水質変化を予測・評価する手法等に関して検討を行う。 ③河川水質の変動要因についての検討 　河川水質における下水処理水の影響や土地利用形態の影響について検討を行う。	９ 月上旬ー中旬は学会参加のため受け入れが難しい場合がある。	研究員	服部啓太	4332						
4	流域水環境研究グループ	自然共生研究センター （岐阜県各務原市）	令和8年7月1日頃	令和8年9月30日頃	最低1 週間	不可	院・ 学・ 高	3名	魚類、水生昆虫、付着藻類などの河川生物に関する調査、実験河川を 用いた大規模操作実験、実験室での基本的な生物のソーティング、水理計算の基本的な作業、取得データ の打ち込み・ 整理		上席研究員	森　照貴	0586-89-6036	主任研究員	宮川　幸雄	0586-89-6036	研究員	松澤　優樹	0586-89-6036
5	河道保全研究グループ	水工チーム（ 河道班）	令和8年7月1日頃 及び 令和8年9月1日頃	令和8年8月14日頃 及び 令和8年9月14日頃	最低1 週間	可	院・ 学・ 高	①1名 ②1名	①土砂バイパストンネルの摩耗損傷について、次のいずれかの作業を実習内容とする。 　・土砂バイパストンネルに関する水理実験、PIV計測、データ分析等 　・土砂バイパストンネル内の流況分析のための数値シミュレーション ②河道の二極化または橋梁の洗掘について、次のいずれかを実習内容とする。 ・実河川のデータを用いた二極化の要因分析 ・橋梁周辺の根入れ深さに関する現地調査、データ整理 ・橋梁周辺河道の河床変動計算 ※ 実習内容①②いずれも 同じ 受入れ可能期間	現地調査について、公共交通機関を 利用する 場合は、公共交通機関の利用料金を 支給できないため、実習生若しく は大学負担可能であれば実施。土木研究所の公用車に同乗する分については、負担なし 。 留学生においては、日本語で円滑なコミュニケーション が可能であること 。	研究員	熱海　孝寿	4442	研究員	竹崎　奏詠	4444			
6	河道保全研究グループ	水工チーム（ ダム班）	令和8年7月1日頃	令和8年9月11日頃	最低1 週間	可	院・ 学・ 高	2名	ダムの計画、設計、水理模型実験について、次の作業の内から 実習内容とする 。 ・ ダム水理模型実験、実験データ　分析等 ・ ダム周辺の流れに関する 数値シミュレーション ・ 可能であれば現地調査	現地調査について、公共交通機関を 利用する 場合は、公共交通機関の利用料金を 支給できないため、実習生若しく は大学負担可能であれば実施。土木研究所の公用車に同乗する分については、負担なし 。 留学生においては、日本語で円滑なコミュニケーション が可能であること 。	研究員	髙田　翔也	4446						
7	河道保全研究グループ	河道監視・ 水文チーム	令和8年7月1日頃	令和8年9月30日頃	最低1 週間	可	院・ 学・ 高	1名	画像解析を 用いた表面流速計測について	期間は1 週間程度、日程は要調整。業務の都合上、8月中旬以降が望ましい。	主任研究員	萬矢　敦啓	4432						
8	土砂管理研究グループ	火山・ 土石流チーム 地すべり チーム	令和8年7月6日頃	令和8年8月28日頃	1 週間 （ 8月9日～8月23日は除く ）	不可	院・　学	3名	土石流数値計算プログラムの修正作業、地すべりに関するDX関係作業 　・土木研究所土砂管理研究グループで開発している土石流数値計算プログラムDFSSを用いた事例研究を行い、入力データの加工や出力データの可視化作業を行う 　・令和6年能登半島地震で発生した地すべりを対象に、その後の豪雨や対策工による時系列変化について、複数の空中写真からSfMによって3次元点群データを作成する作業を行う	Pyhonによるデータ 加工やデータ 可視化の経験を 有すること が望ましい。	研究員	松永　隆正	4525	主任研究員	村田　郁央	4533			
9	土砂管理研究グループ	火山・ 土石流チーム 地すべり チーム	令和8年9月7日頃	令和8年9月11日頃	1 週間	不可	院・　学	2名	土石流に関する水路実験の補助、地すべりに関するDX関係作業 　・透過型砂防堰堤の土石流捕捉機能の向上に関する水路実験の補助作業を行う 　・水路実験結果のデータ整理を行う 　・令和6年能登半島地震で発生した地すべりを対象に、その後の豪雨や対策工による時系列変化について、複数の空中写真からSfMによって3次元点群データを作成する作業を行う		研究員	松永　隆正	4525	主任研究員	村田　郁央	4533			
10	道路技術研究グループ	トンネルチーム	令和8年9月7日頃	令和8年9月18日頃	最低1 週間	可	院・ 学・ 高	2名	山岳トンネルの力学特性等の基礎知識を 習得することを 目的に、以下のいずれかに関連した内容を 実施する 。 ①数値解析手法を用いた実習 　簡易な二次元解析や三次元解析を実施することで、山岳トンネルの力学的特性や地山挙動を把握するとともに、理論解との比較検討等を行う。 ②実験的手法を用いた実習 　簡易な模型実験や実験結果の整理・分析等を行うことで、山岳トンネルの変形メカニズム等の検討を行う。 ③データ分析を用いた実習 　施工時データと数値解析データ等を分析し、山岳トンネルの地山評価手法の仕組みを把握する。	留学生においては、日本語で円滑なコミュニケーション が可能であること 。	研究員	佐野　和弥	4639						

別　添

令和8年度　夏期インターンシップ生（長期）受入れ予定一覧表

番号	受入れ部署		受入可能期間			留学生	受入れ対象	受入れ可能人数	実習内容	備　　考	指導担当者１			指導担当者２			指導担当者３		
	局・部・グループ	チーム・班・担当	自	至	受入れ最低期間						役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号
11	水災害研究グループ		令和8年7月1日頃	令和8年9月30日頃	1 週間	可	院・ 学・ 高	3名	タイト ル:「 仮想洪水体験システム（ VFES） 」に関する水文モデルおよび仮想空間におけるハザード マップ 作成演習と 発表 内容:「 仮想洪水体験システム（ VFES） 」のマインクラフト 版かUni ty版の常総市版で、水文モデル演習（ ｉＲＩＣ（ RRI モデル） で実施） および仮想空間におけるハザード マップ 作成演習を実施 想定スケジュール: 1日目 「 仮想洪水体験システム（ VFES） 」やマイタ イムラインなどに関する概要説明 1日目～3日目　水文モデル（ ｉＲＩＣ（ RRI モデル） ） 、仮想空間におけるハザード マップ 作成、マイタイムライン 作成などに関する講義と 演習（ できれば現地視察含む） 4、5日目　ディスカッション 5日目　ディスカッション結果のプレゼン、議論 ※演習用のパソコンは可能であればインターン生が持参。ない場合は土研から貸与。		主任研究員	傳田　正利	3908	研究員	山下　大輝	3817			
12	橋梁構造研究グループ		令和8年9月7日頃	令和8年9月30日頃	最低1 週間	不可	院・ 学・ 高	2名	①道路橋の点検や計測等に用いる技術の紹介・体験 ・コンクリート橋の非破壊点検技術の紹介・体験、診断支援AIシステムの紹介・現場実習 ・疲労亀裂や腐食減肉が生じた鋼部材の非破壊調査・計測技術の紹介・体験実習 ・地震発生後の点検に関する研究の紹介、技術使用の体験 ・洗掘計測治具を用いた調査作業、調査結果の整理、データ分析 ②実験に関する準備作業やデータ整理、実験見学、実験動画の紹介等 ・道路橋の橋台及びアプローチ部の地震時挙動把握のための動的遠心模型実験に関する実験準備（3次元点群データ取得）作業、データ整理作業等 ・カルバートの正負交番載荷試験に用いた実験供試体の見学、実験動画の紹介 ・コンクリート部材に関する実験見学、過去の実験動画の紹介 ③その他 ・研究職の働き方等に関する若手職員との意見交換 ・土木研究所やCAESARの研究内容、災害時の活動を広く知ってもらうための広報素材の作成	・ 具体的な実習内容や実習計画については、受け入れ時期、実習生の希望や学習状況、業務の進捗状況などを踏まえたうえで決定します。 ・ 受け入れ時期、期間の詳細はご 相談く ださい。	主任研究員	二宮　智大	4720						
13	材料資源グループ	先端材料・ 高度化担当	令和8年7月1日頃	令和8年9月30日頃	最低1 週間	可	院・ 学・ 高	2名	土木分野で用いられる代表的な材料（ FRP、塗料、補修材料、アスファルト 、セメント 系材料など） に関する社会的課題を解決するための性能評価手法を具体事例を通じて 体験する。 【 テーマ】 （ １ ） 環境負荷低減を目指した水性・ 無機系塗料の評価 （ ２ ） アスファル ト 舗装のリ サイクルやアスファル ト 代替材料の原子間顕微鏡観察 【 実習内容】 ・ 暴露供試体等を用いた実験と データ 解析を通じ た性能評価 ・ 各種の原子顕微鏡観察 ・ 可能であれば現地調査にも 同行し 劣化診断や実環境での暴露状況を観察する	化学系学科あるいは物質系学科（ 分析化学、物理化学、無機化学、有機化学、高分子化学、材料科学、物質工学、化学工学、環境化学、農芸化学など） もしく は腐食防食、あるいはアスファル ト 舗装材料を取り 扱う 土木系学科の学生を対象とします。 担当者の都合により、作業内容により 受け入れできない期間があります。	上席研究員	冨山　禎仁	4121	上席研究員	百武　壮	4141			

※　研究企画課　夏期インターンシップ生（長期）担当（TEL：029-879-6751、mail：saiyou-kikaku@pwri.go.jp）
※　院：大学院、学：大学、高校：高等専門学校（研究所が同等と認める機関を含む）